

「情報公開文書」

研究課題名：

地域大腸がん検診における大腸腺腫症例からみたサーベイランスの検討

研究責任者：

所属 宮城県対がん協会 職名 消化器担当医長

氏名 只野 敏浩

1. 研究の対象

2017年4月から2019年3月に地域大腸がん検診を受診した40歳以上の受診者（宮城県対がん協会では便潜血検査を実施した方々）。

2. 研究目的・方法

大腸内視鏡検診導入に伴う大腸腺腫経過観察例の増加により内視鏡のキャパシティを圧迫していくことが予想され、適切なサーベイランスプログラムを実施することは重要な課題である。そのような中、地域大腸がん検診においてサーベイランスを考える上で必要となる大腸腺腫の詳細なデータは少ない。今回、地域大腸がん検診において発見された大腸腺腫の特徴を分析することで、必要となるであろうサーベランスとその問題点を検討する。

一次検診は便潜血免疫法でヘモテクト plus キットを用いカットオフ値は150ng/dlとした。精密検査はTCSを第一選択とし、困難時はSCSと注腸検査（もしくは大腸CT検査）を行った。結果は精検または治療施行施設へ調査票を送り、精検受診者に占めるがん、腺腫、ポリープ検出率（がんを除く）、さらには腺腫をサイズ別（5mm未満、5-9mm、10mm以上）に分け、個数別（1-2個、3-10個、11個以上）、病理組織学的にvillousな成分を有無などリスク群の占める割合を比較した。研究期間は2024年3月までとする。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

検診受診数、検診受診率、精検受診率、がん発見率、腺腫発見率、ポリープ（がんを除く）発見率、腺腫の大きさや個数、villous成分の有無、検診時年齢、性別等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて受診者さまもしくは受診者さまの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも受診者さまに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

公益財団法人 宮城県対がん協会 がん検診センター TEL：022-263-1525